

事務連絡
令和6年3月14日

都道府県下水道担当課長 殿
政令指定都市下水道担当部長 殿
（上記、各地方整備局等経由）
市町村下水道担当部長・課長 殿
（上記、各都道府県経由）
日本下水道事業団事業調整課長 殿
都市再生機構下水道担当課長 殿

国土交通省水管理・国土保全局下水道部
下水道事業課事業マネジメント推進室課長補佐

下水道工事における安全対策の徹底（その3の2）について （令和6年1月10日福岡県北九州市発注工事に伴う死亡事故）

本年1月10日、福岡県北九州市発注の側溝新設工事に伴う水道管切り替え工事において、バックホウによる掘削作業を行った後、深さ約1.35mの掘削穴の中で、作業員が検測をしていたところ、側面の鉦滓塊が崩落し、作業員が崩落した鉦滓塊の下敷きとなり、救急搬送されましたが、死亡するという事故が発生しました。

事故原因等を確認した結果、以下の点について安全対策の不備がありました。

- ・先行して隣接するガス管の移設工事を行っており、土砂が崩落しやすい状況であったにもかかわらず、掘削深が1.5m未満であるため、土留の設置を行わず作業を行ったこと。

事故原因等を受けまして、別紙のと通りの再発防止策を行うこととされました。

同様の安全対策の不備による死亡事故が複数発生しており、各下水道管理者におかれましては、改めて工事現場へのパトロールを通じ、施工計画書等に基づく作業手順とお通りの施工や安全管理の徹底を確認するとともに、当該再発防止策も参考として安全管理に対する指導を再度徹底することで受注者の安全意識の醸成を図り、事故の未然防止に努めていただくようお願いします。

【事故発生状況】

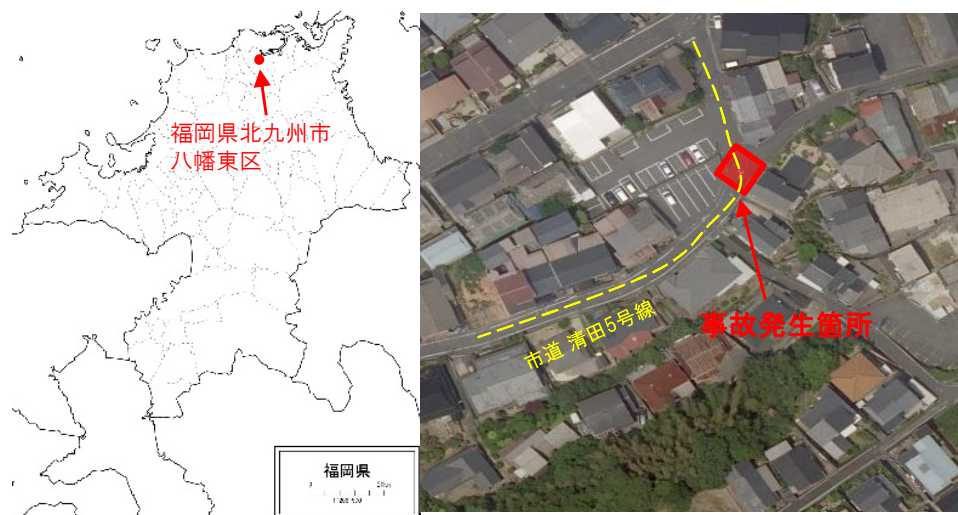
側溝新設に伴う水道管の切り替えを行うため、元請け業者がバックホウにより掘削作業を行った後、掘削箇所（深さ1.35m）に水道工事業業者（市委託）の作業員が入り、かがんで検測していたところ、側壁の鈹滓が剥がれ落下。

作業員は、鈹滓塊の下敷きとなり死亡した。

【事故発生原因】

先行して隣接するガス管の移設工事を行っており、土砂が崩落しやすい状況であったにもかかわらず、掘削深が1.5m未満であるため、土留の設置を行わず作業を行ったこと。

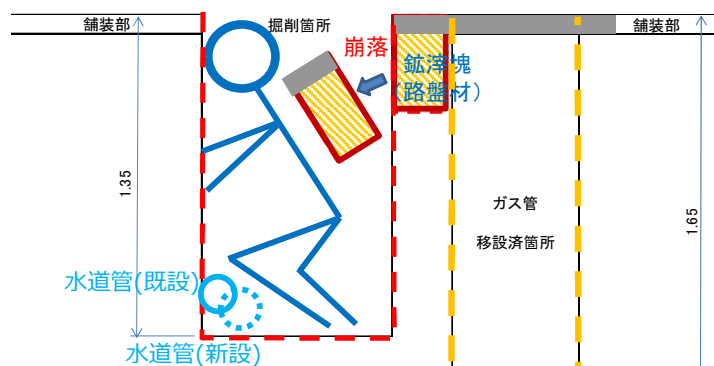
【位置図】



【再発防止策】

- ・ 土砂の崩落の危険性がある箇所については、掘削深1.5m未満であっても、土留の設置、または崩壊の恐れがある土砂の撤去を行う。
- ・ 施工業者が混在する場合は、安全責任体制を明確にする。
- ・ 安全責任者は常駐し、安全施工および周囲の安全状況の監視を行う。
- ・ 土留不要と判断した場合でも、不測の事態に備えて、土留材料の準備を行う。

【状況図】 (横から見た状況図)



【状況写真】

側面の鈹滓塊等が崩落し、作業員が下敷きとなった。

